



S.Setoguchi

THE TULIP SHO

第32回 チューリップ賞 (GII)

1着 2着 3着 4着 5着
本賞 52,000,000円 21,000,000円 13,000,000円 7,800,000円 5,200,000円
付加賞 1,078,000円 308,000円 154,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

牝、3歳
負担重量 馬齢重量

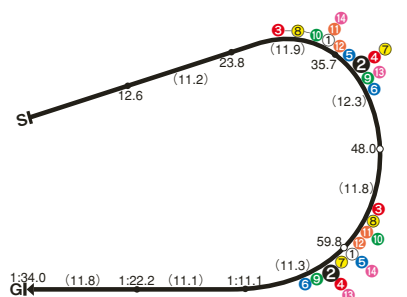
2025.3.2 阪神 小雨・良 芝1600m (国産) (指定)

着順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り 600m (増減)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	②	クリノメイ	牝	3	55	酒井 学	1:34.0	4-3	33.7	446(-2)	39.3⑨	須貝尚介(栗東)	108
2	⑪	ウォーターガーベラ	牝	3	55	武 豊	ハナ	9-11	33.2	446(+4)	15.1⑦	河内 洋(栗東)	107
3	⑨	ビップデイズ	牝	3	55	幸 英明	½	2-2	34.0	434(-2)	2.9①	松下武士(栗東)	106
4	①	ザラタン	牝	3	55	池添謙一	1¼	9-7	33.8	438(-4)	75.0⑩	中竹和也(栗東)	103
5	④	ナムラクララ	牝	3	55	西村淳也	ハナ	4-3	34.0	470(-2)	5.0③	長谷川浩大(栗東)	
6	⑩	ルージュソリテール	牝	3	55	北村友一	クビ	8-10	33.6	428(-2)	12.3⑤	藤原英昭(栗東)	
7	③	ノクナレア	牝	3	55	松山弘平	クビ	14-14	33.1	442(-8)	19.6⑧	今野貞一(栗東)	
8	⑥	プリンセッサ	牝	3	55	和田竜二	½	1-1	34.7	500(-8)	100.9⑪	牧田和弥(栗東)	
9	⑦	ルージュナリッシュ	牝	3	55	川田将雅	アタマ	4-6	34.1	438(-14)	15.0⑥	国枝 栄(美浦)	
10	⑤	フェアリーライク	牝	3	55	岩田望来	アタマ	7-7	33.9	456(-6)	6.3④	笹田和秀(栗東)	
11	⑭	マイエレメント	牝	3	55	坂井瑠星	2	9-7	34.2	484(+4)	4.6②	福永祐一(栗東)	
12	⑧	サウンドサンライズ	牝	3	55	松若風馬	½	13-13	33.8	398(-8)	206.1⑫	音無秀孝(栗東)	
13	⑩	メイショウタマユラ	牝	3	55	田口貴太	クビ	12-11	34.0	412(-8)	93.6⑬	大橋勇樹(栗東)	
14	⑬	ラウルベア	牝	3	55	角田大和	4	2-3	35.4	456(+12)	96.6⑬	高野友和(栗東)	

単勝②3,930円(9¼%) 複勝②690円(9¼%) ⑪380円(6¼%) ⑪140円(1¼%) 枠連②-⑦9,410円(21¼%)

馬連②-⑪24,010円(45¼%) ワイド②-⑪5,650円(46¼%) ②-⑧①,290円(16¼%) ⑧-⑪930円(10¼%)

馬単②-⑪64,260円(102¼%) 3連複②-⑧-⑪15,660円(53¼%) 3連単②-⑪-⑧192,330円(492¼%)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
35.7 - 48.0 - 59.8 46.0 - 34.2

アラカルト

- ・酒井学騎手はチューリップ賞初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算19勝目
- ・須貝尚介調教師はチューリップ賞初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算52勝目
- ・オルフェヴル産駒はJRA重賞通算31勝目
- ・スリルミニョンは疾病(感冒)のため出走取消
- ・クリノメイ、ウォーターガーベラ、ビップデイズは桜花賞(GI)に優先出走できる

クリノメイ Kurino Mei

牝 栗毛 2022.5.8生
北海道日高町 木村牧場生産
馬主・栗本依利子氏 栗東・須貝尚介厩舎
馬名意味・冠名+命

ウインクアットデエンジャーCAN系 F22-a

オルフェーヴル 栗毛 2008	ステイゴールド 黒鹿毛 1994	サンデーサイレンスUSA ゴールドンサッシュ
	オリエンタルアート 栗毛 1997	メジロマックイーン エレクトロアート
クリノエリザベス 鹿毛 2011	ブリサيسエンドUSA 黒鹿毛 1997	End Sweep Precisely
	ウインクアットデエンジャーCAN 黒鹿毛 1991	Danzig Tilt My Halo

5代までのインブリード：Halo S4×M4 ノーザンテーストCAN S4×S5
Northern Dancer M4×S5

INTERVIEW

木村豪 繁殖牧場長(木村牧場)

気性面に気をつけながら育てました

レースは牧場で見ました。スタッフ達は、床が抜けるのではないかなと思うほど興奮しながら応援していました。前走(ゲート内で立ち上がり外枠発走)からここまでしっかりとケアしていただいた須貝厩舎の方々に感謝いたします。母馬に似てこの馬もスイッチが入りやすい性格でしたので、気性面に気をつけながら育てました。無事に桜花賞を迎えてほしいです。

K.Ishida



新馬戦、サフラン賞を連勝して挑んだ阪神ジュベナイルフィリーズではゲート内で立ち上がりつまい、外枠発走に。激しい気性が災いして本来の能力を発揮できなかった本馬だが、平常心を保てるよう、様々な工夫を凝らされて臨んだ3歳の始動戦で鮮やかな変わり身を見せた。ハナ差の勝利はサフラン賞に続いて2回目。勝負強さも光るオルフェーヴル産駒が桜花賞の中心勢力の一角に急浮上だ。

新馬戦、サフラン賞を連勝して挑んだ阪神ジュベナイルフィリーズではゲート内で立ち上がりつまい、外枠発走に。激しい気性が災いして本来の能力を発揮できなかった本馬だが、平常心を保てるよう、様々な工夫を凝らされて臨んだ3歳の始動戦で鮮やかな変わり身を見せた。ハナ差の勝利はサフラン賞に続いて2回目。勝負強さも光るオルフェーヴル産駒が桜花賞の中心勢力の一角に急浮上だ。

父オルフェーヴル

北海道白老町 (南社台コーポレーション白老ファーム生産 中央、仏21戦12勝(日本ダービー^{G1}、皐月賞^{G1}、菊花賞^{G1}、有馬記念^{G1}2回、宝塚記念^{G1})、年度代表馬、最優秀3歳牡馬、最優秀4歳以上牡馬2回、14年から供用〔代表産駒〕エポカドーロ(皐月賞^{G1}、日本ダービー^{G1}2着)、ラッキーライラック(大阪杯^{G1}、エリザベス女王杯^{G1}2回、阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1})、ウシユバテソーロ(ドバイワールドC・首^{G1}、東京大賞典^{G1}2回、川崎記念^{Jh}1)、マルシュロレーヌ(BCディスタフ・米^{G1})、ショウナンナデシコ(かしわ記念^{Ih}1)、オーソリシティ(青葉賞^{GII}、アルゼンチン共和国杯^{GII}2回、ジャパンC^{G1}2着)、アイアンバローズ(ステイヤーズS^{GII})、オセアグレイト(ステイヤーズS^{GII})、シルヴァーソニック(ステイヤーズS^{GII})、ショウリュウイクゾ(日経新春杯^{GII})、クリノメイ(本馬)、他に重賞勝ち馬多数

母クリノエリザベス

北海道新ひだか町 タイヘイ牧場生産 中央6戦2勝(尾頭碕特別)、地方4戦3勝(リリーC)

クリノスパークル(18 牝父フリーオソ)中央6戦0勝、地方5戦4勝

クリノリンカーン(20 牝父ブラックタイド)中央2戦1勝

(21 牝父オルフェーヴル)

クリノメイ 本馬(22 牝父オルフェーヴル)中央4戦3勝(チューリップ賞^{GII}、

サフラン賞)獲得総賞金71,195,000円

(24 牝父アスカリチャン)

※19(流産)、23(前年種付せず)

祖母ウインクアットデエンジャーCAN

不出走。98年輸入、11年用途変更

ヴァリーフォールズ Valley Falls(96 牝父Majestic Light)北米2勝(ゴールドディガー・S・L)

リキマドリードUSA(97 牝父Miswaki)不出走、ステラマドリード(ラジオNIKKEI賞^{GIII}3着)、タートルベイ(北山S、桜島特別、中日杯、北國王冠)の母、マドリッドカフェ(京都ハイジャンプJ・^{GII}、万葉S^{OP})の祖母

ハナバック(03 牝父アフリートCAN)中央3勝

シムバーストーン(04 牝父スペシャルウィーク)中央2勝(フェニックス賞^{OP})、

地方1勝

デンジャーマネー(08 牝父マンハッタンカフェ)中央0勝、サンオークレア

(レジーナディンヴェルノ賞、グランジャリオクイーンズ)の母

クリノエリザベス(11 前出)

大敗から巻き返しハナ差で重賞初制覇

スタンドリフレッシュ工事が完了し、前日にリニューアルオープンを迎えた阪神競馬場。改築されたスタンドのもとで行われた最初の重賞、桜花賞トライアルのチューリップ賞には阪神ジュベナイルフィリーズの2着馬、ヒップデイズが参戦し、頭ひとつ抜けた支持を集めた。アルテミスSの5着馬マイエレメント、紅梅Sの覇者ナムラクララがこれに続く存在と目されたものの、勝利の女神が微笑んだのは9番人気の伏兵クリノメイ。激しい気性も秘めるオルフェーヴル産駒が2歳女王決定戦の大敗14着から巻き返し、こけら落としの重賞を制した。

好スタートを切ったナムラクララが

まずは押し出される形で先頭に立ったものの、最初の200m地点を過ぎたところでプリンセッサがこれをかわし、主導権を奪取。ヒップデイズが2番手に続き、先行勢の隊列が定まる。互角以上の勢いで飛び出したクリノメイの酒井学騎手は好位のインにつけ、徐々に位置を下げたナムラクララがその外を追走。大外枠を引いたマイエレメントは中国の外で末脚を温存した。内々で運んだ酒井騎手は直線に向くと、逃げ馬とヒップデイズの間に開いたスペースを突いてスパイク。ヒップデイズも応戦して仕掛け、坂下からは2頭が先頭を争う形勢に。手応えほど伸び切れなかったヒップデイズにかわり、定年を迎える河内洋調教師が送り出した最後の管理馬ウオーターガーベラがゴール前で内から強襲。勝負の行方はもつれたが、息の長い末脚と勝負根性を振り絞ったクリノメイがハナ差の接戦に競り勝った。